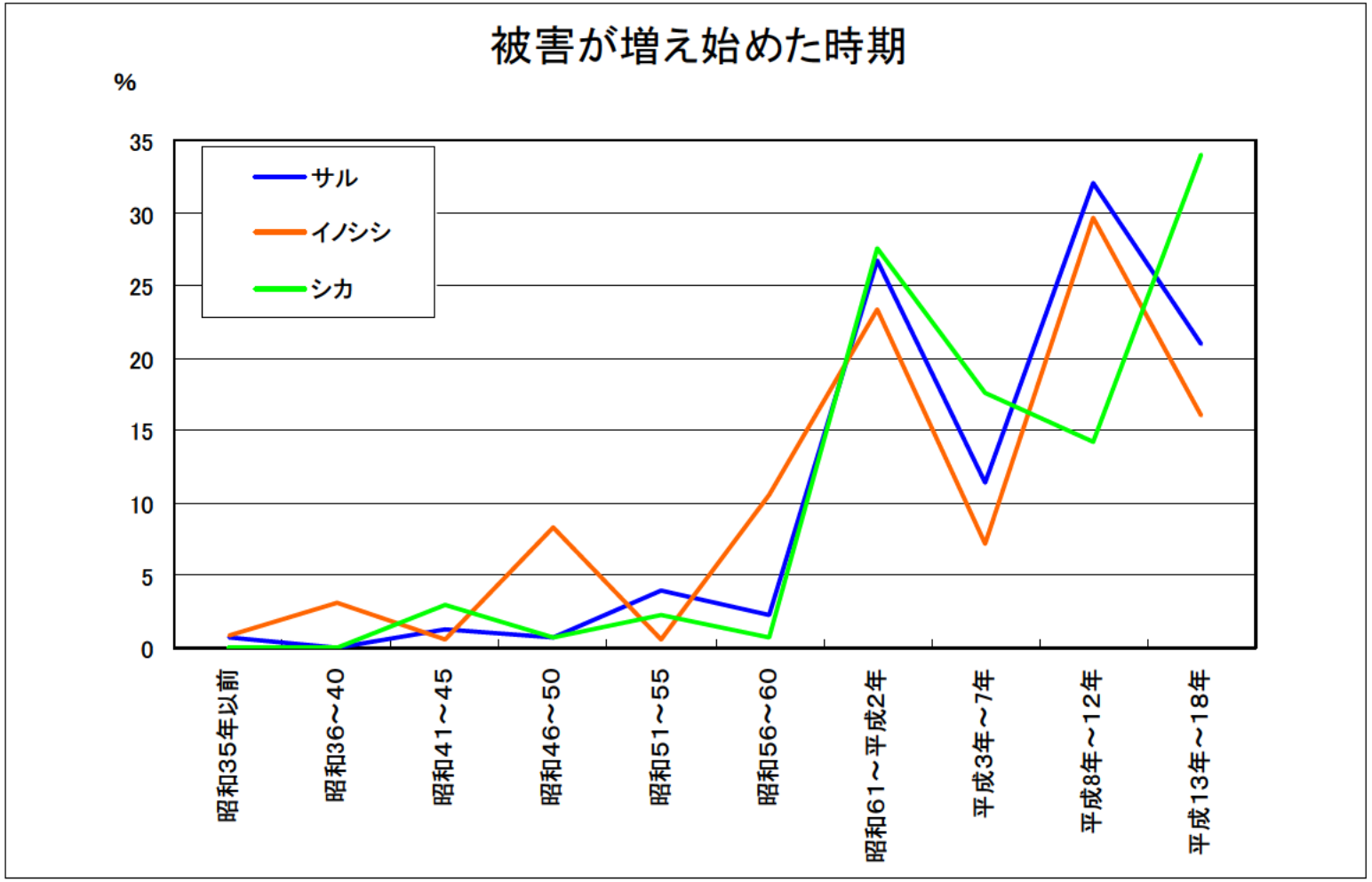
H18年度獣害状況アンケートの結果について

三重県農業研究所

被害が増え始めた時期

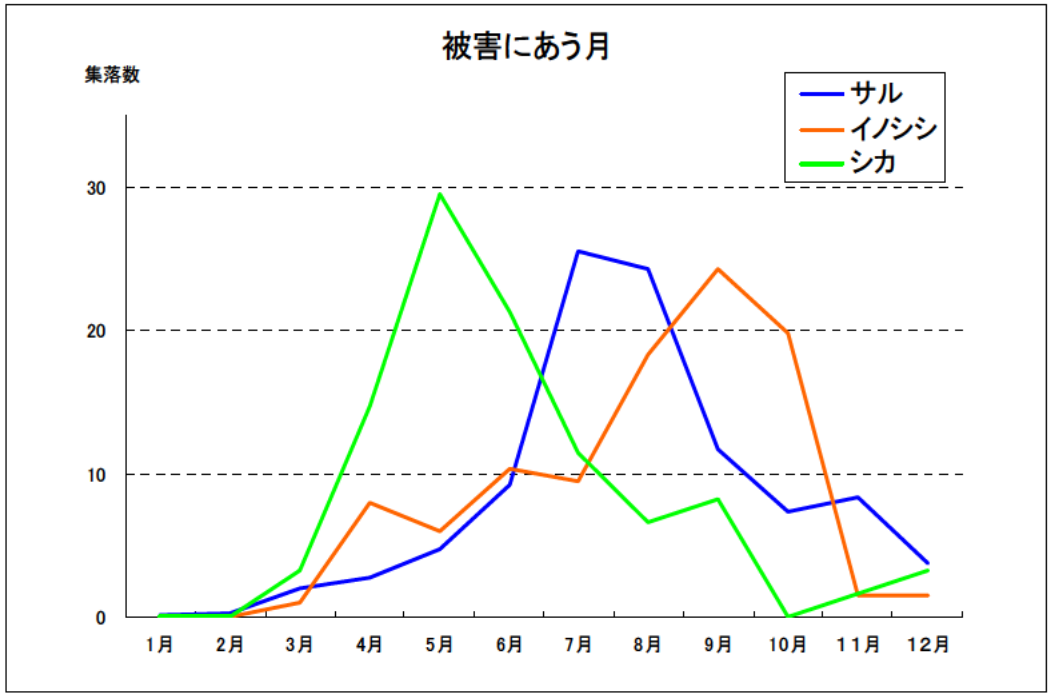
3獣種とも平成元年前後から被害が増加し始めたが、シカの被害は数年前～現在にかけて増え始めたという回答が多い。

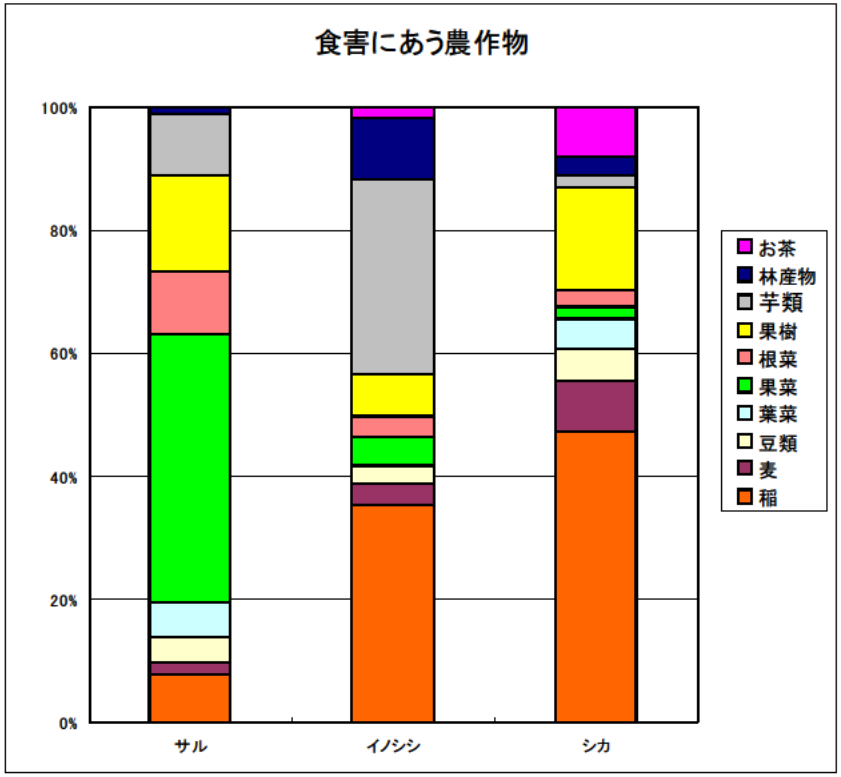


被害発生の時期と被害作物

①被害が発生する時期では、シカは5月、サルは7，８月、イノシシは9月との回答割合が高い。

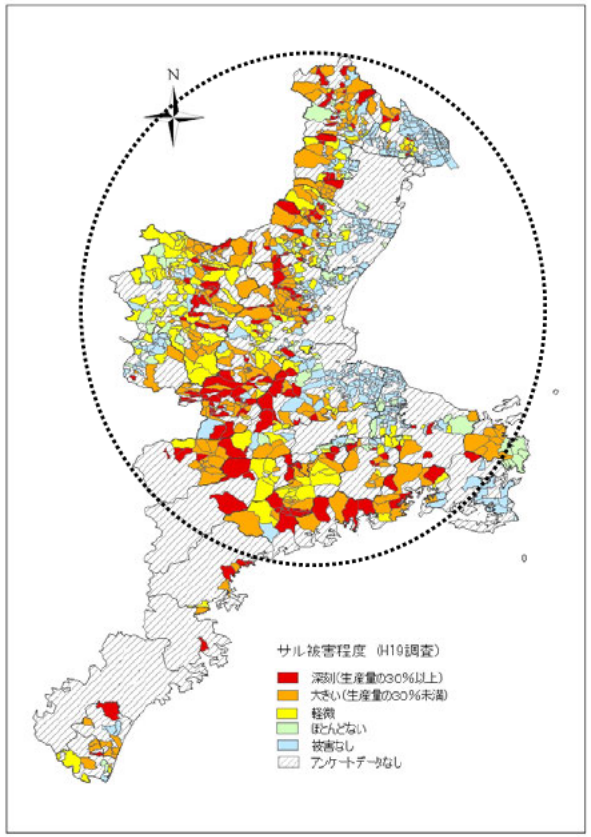
②これは、被害作物の割合が、シカでは水稲（苗）、サルは果菜類、イノシシは芋類と水稲（収穫前）の比率が高いことを裏付ける

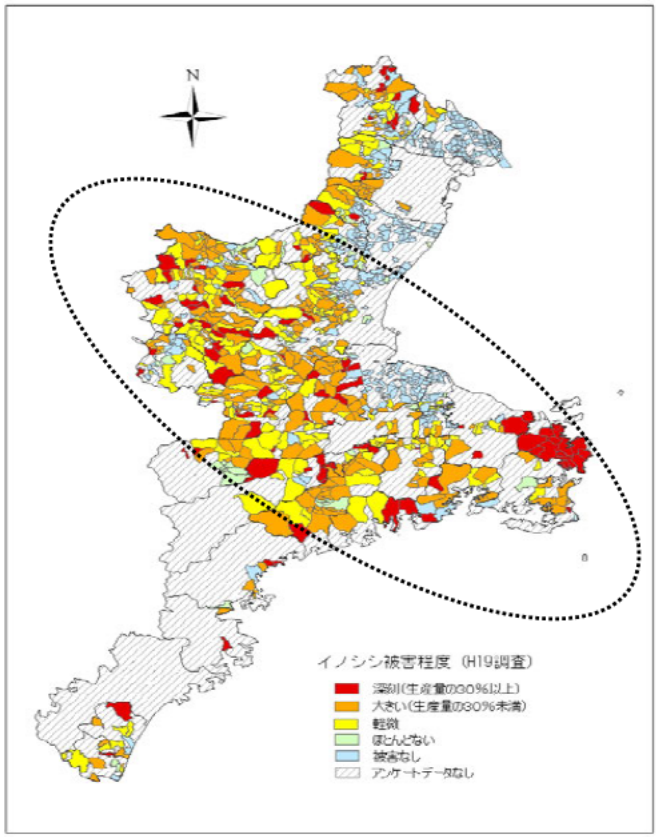


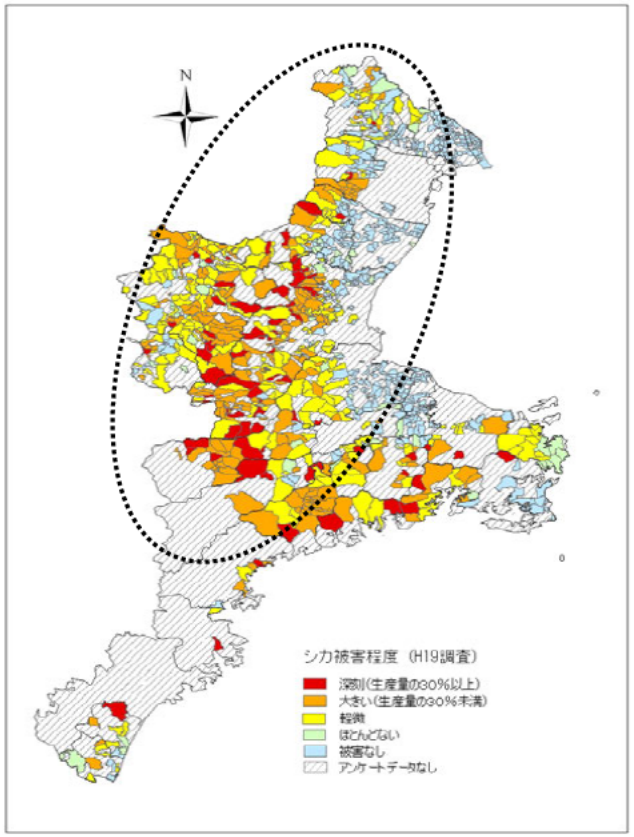


集落の被害状況

イノシシは志摩半島から伊賀地域にかけての県中央部、シカは鈴鹿山脈中心の脊梁地域、サルは県内全域で、被害多発集落が分布



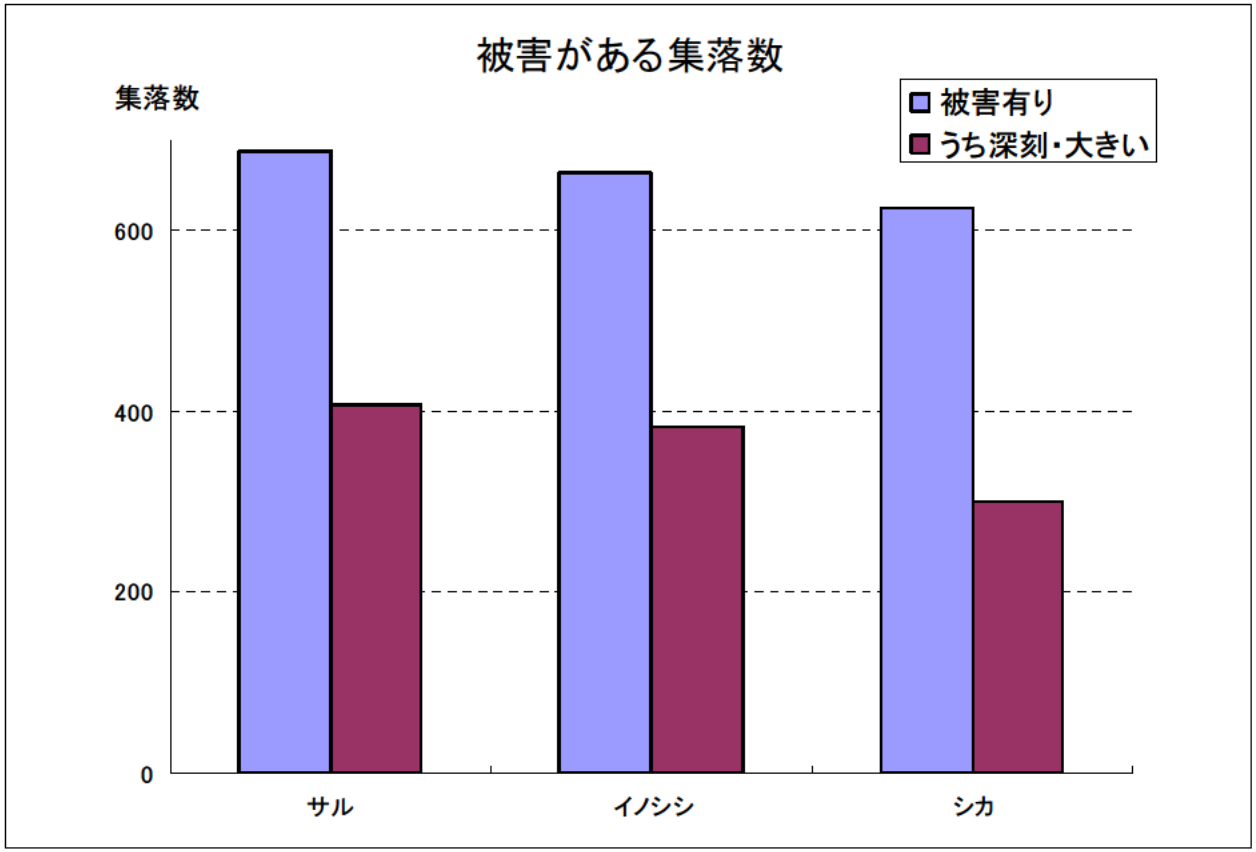




集落の被害状況

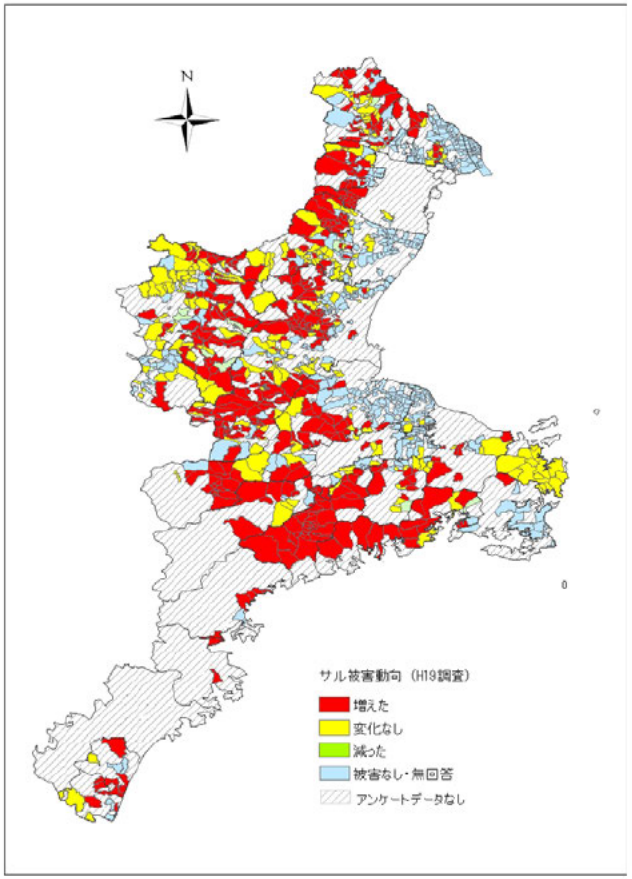
①回答のあった集落1109集落のうち、サル63%(700)、イノシシ61%(678) 、シカ57%(637) の集落で被害が発生している。

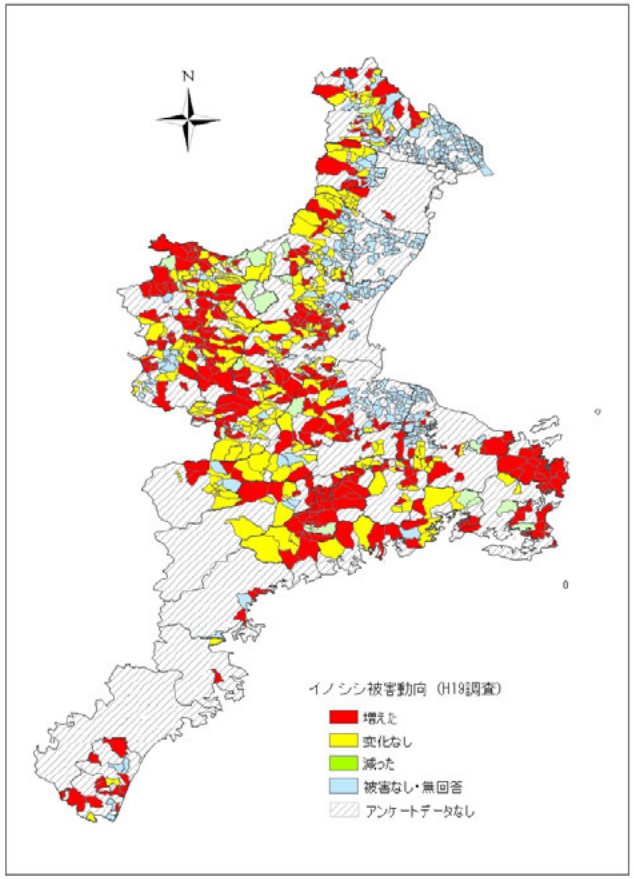
②また、サル37%(413)、イノシシ35%(391)、シカ28%(308)の集落が、その被害を「大きい」または「深刻」と感じている

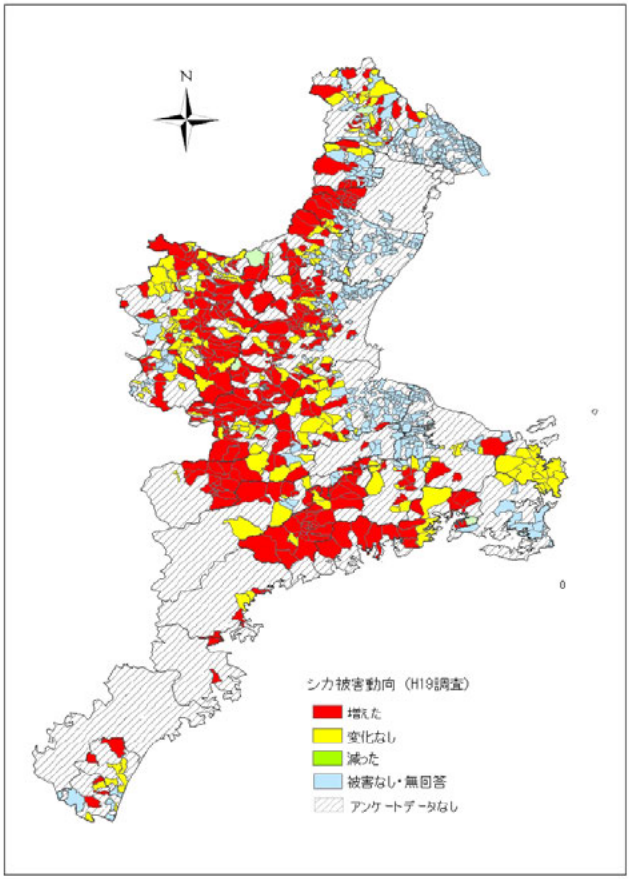


集落の被害の動向

視覚的には、イノシシは「被害が増えた」集落が比較的少なく、シカ＞サル＞イノシシの順で被害が増えたと回答する集落が多い

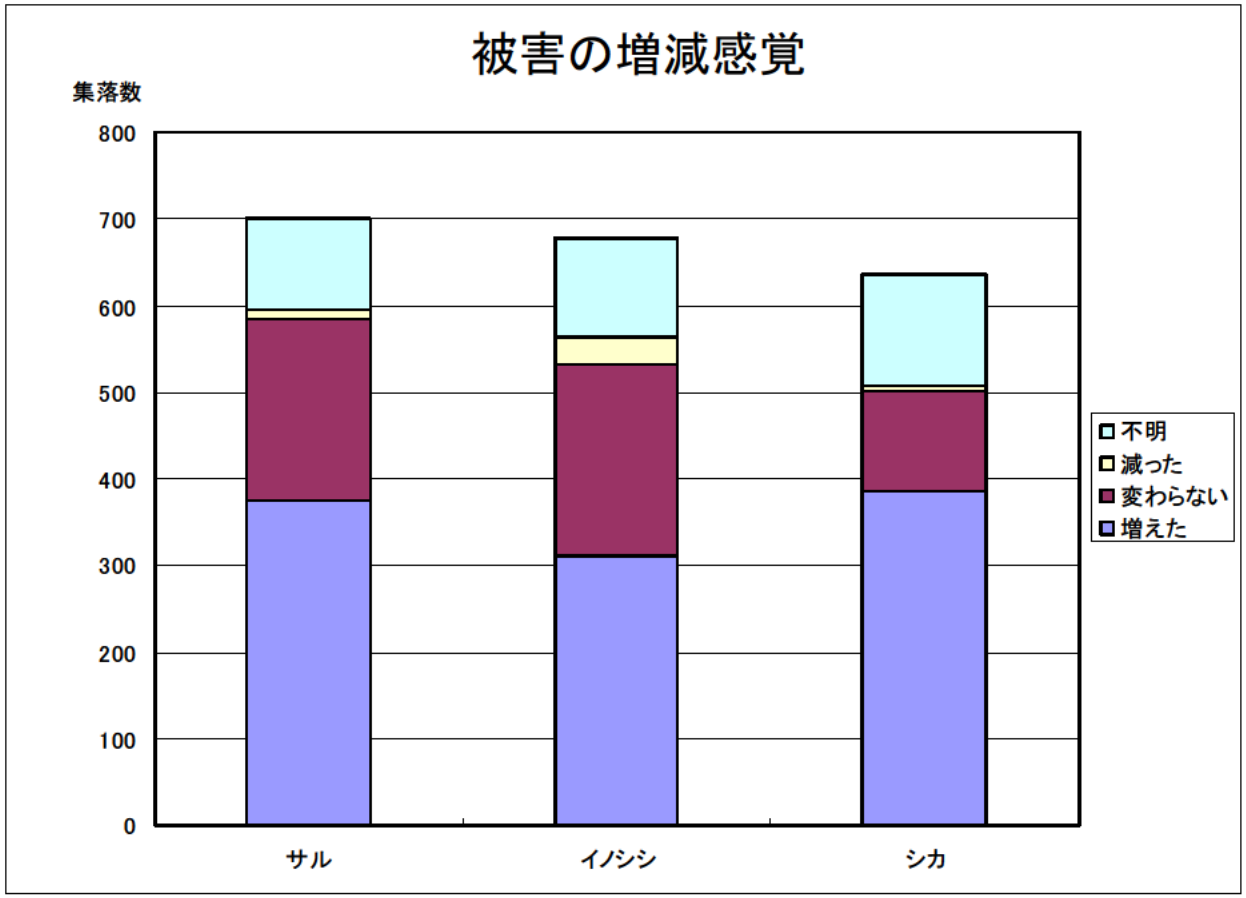






加害獣ごとの被害の増減感覚

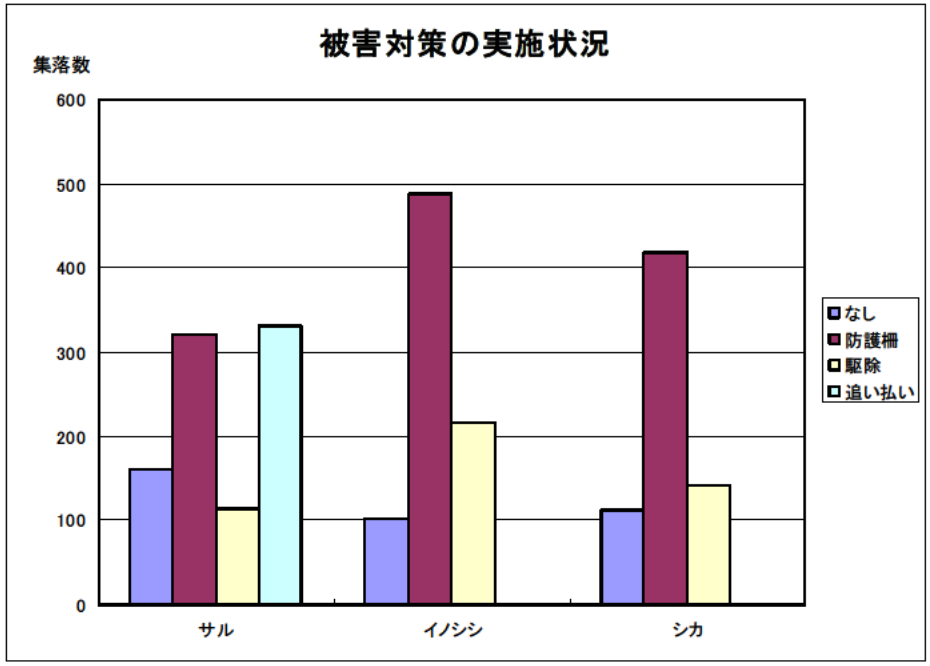
①サル58％(375)、イノシシ50％(311)、シカ68％(385)の集落が、その獣種の被害を「増えた」と回答。
シカ＞サル＞イノシシの順で「増えた」と認識しており、シカの被害が増えたと感じている集落が多い。 ➡ 今後、シカの被害増加が懸念される

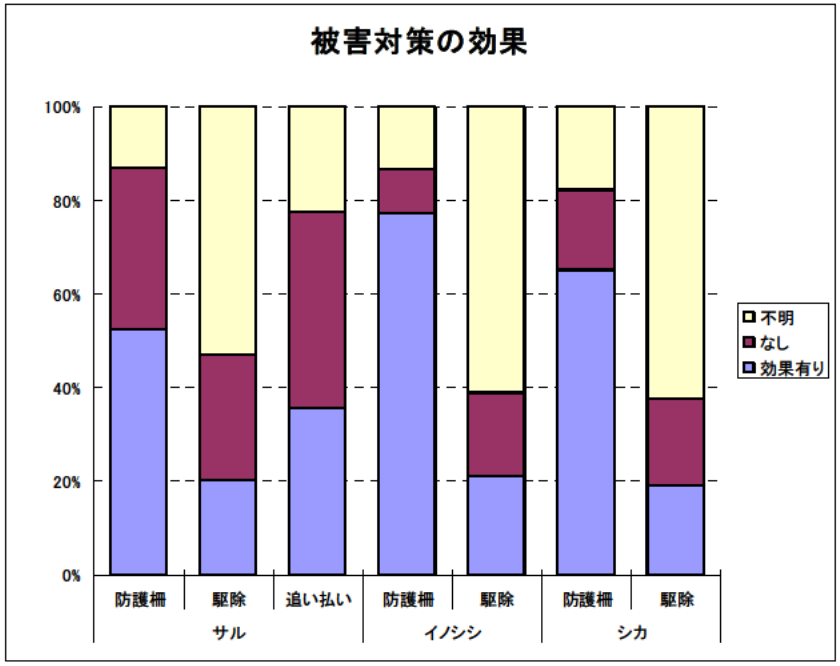


被害対策とその効果

①被害対策は、イノシシでは72%（488集落）が電気柵等の施設整備を行っているなど、何らかの被害対策を行っている集落が大半を占める。

②しかし、その対策を「効果があった」と評価している集落は獣種によって差が大きく、イノシシの電気柵については77%（377集落）なのに比べ、サルの追い払いでは35%（117集落）にとどまった。

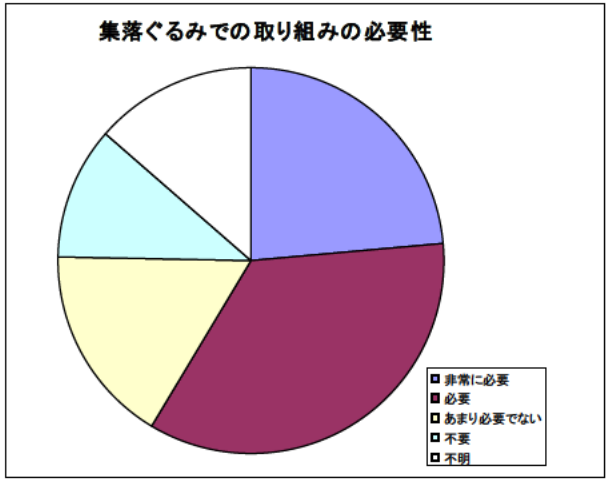


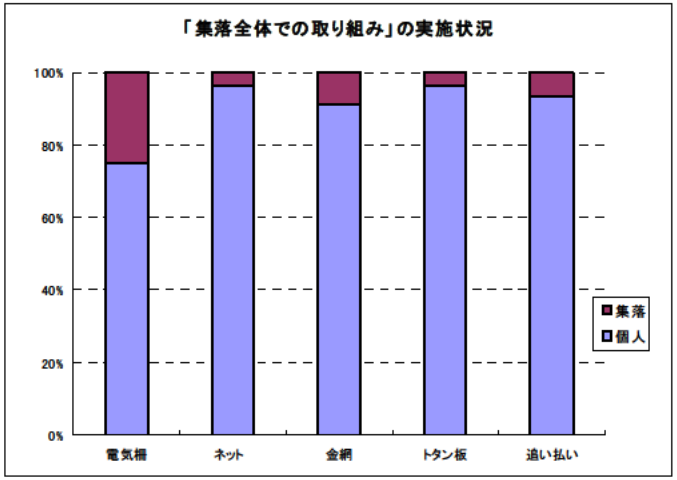


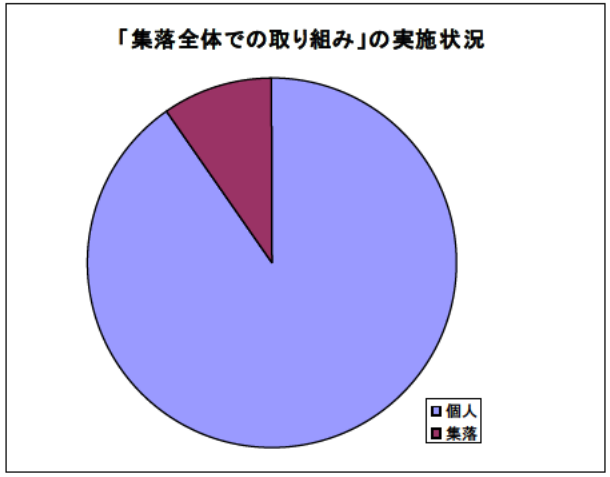
「集落ぐるみでの対策」の実施状況

①集落全体での被害対策を必要と答える集落は「必要」「とても必要」合わせて638集落（58％）と、高い割合を示す

②しかし、実際の被害対策を集落全体で実施している割合は、11％（120集落）と、意識と行動に大きな差がみられる。 → 動物ではなく「人」の問題







結果

■集落単位の被害状況と被害対策の実施状況等の調査

□3獣種とも、深刻な被害が発生しており、300集落以上が、その被害程度を「深刻」と受け止めている。

□被害の程度ではサル＞イノシシ＞シカの順で被害を深刻と受け止める集落が多い。

□一方、被害の増加の動向では、シカ＞サル＞イノシシの順となっており、今後シカの被害が増加することが懸念される。

□被害対策では、イノシシの防護柵への効果は比較的高いものの、サルについては追い払い、防護柵とも、集落の評価は高くない。

□集落全体での被害対策に関しては、「必要」ととらえる割合は高いものの、その実施率は極めて低い状態であり、上記の対策への評価が低いことの一因と推察され、今後は被害対策を「集落ぐるみ」で実施できる体制を構築するという、「人」の対策が重要だと思われる。